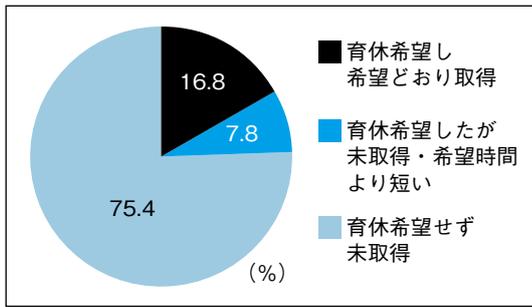


■ 男性の育児休業等取得状況・取得意向



「育休希望せず未取得」が75%と最も高い

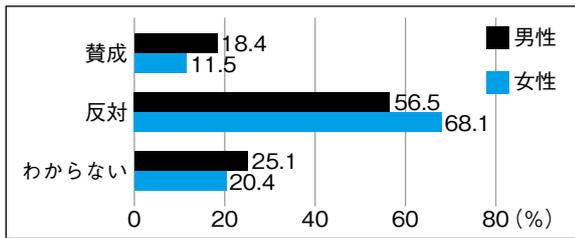
「育休を希望しておらず、育休を取得しなかった」が75%と最も高いが、0～2歳の未就学児を持つ人の中では、「育休を希望しており、希望期間どおり(または希望以上)に取得した」(35%)が高い。

学生(高校生・大学生・専門学校生等)の男女に将来子どもを持った場合、育児休業等取得の希望を聞いた質問では、「育休等を取得したい(取得してほしい)」が100%である。

※育児休業等…法定の育児休業制度に加え、育児や妻のサポートを目的とした有給休暇、特別休暇を含む

2 ジェンダーギャップに関する意識

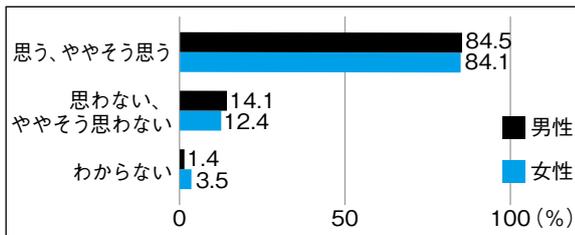
■ 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」といった考え方



6割が反対。性別、年齢によって差あり

全体で見ると63%が反対している。男女別で見ると、男性は57%、女性68%で、女性のほうが反対だと考える人が多い。年代別で見ると、反対と考える人が20代で72%、70代以上では51%となっており、世代間により差が見られる。

■ 暮らしの中で男女間の差を感じることもあるか



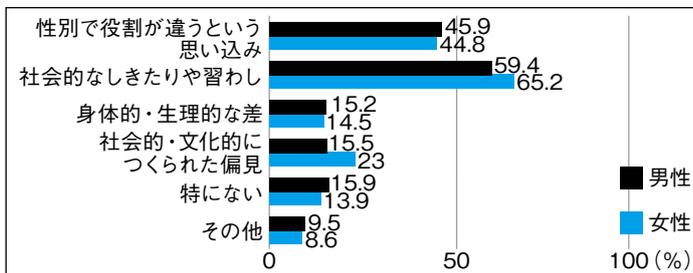
8割以上が暮らしの中で男女間の差を感じている

社会や職場、家庭において「女性だから、男性だからこうあるべき」という決めつけや、固定的な性別役割分担を前提とした仕組みや慣習などによる男女間の差を感じることがあると答えた人が、全体で84%ある。

■ 社会や職場、家庭において感じる男女間の差(男女合計：上位5項目)(複数回答可)

1	【社会】 法事や祝い事などでの親族・親戚等との交流時に役割が男女で決まっている	56.4%
2	【家庭】 女性は仕事と家事・育児・介護等の両立が難しい	54.3%
3	【家庭】 男性は家庭よりも仕事を優先している	49.8%
4	【職場】 男性は基幹的な業務やリーダーを、女性は補助的な業務を担っている	43.9%
5	【家庭】 男性は家族を養うべきである(稼ぎ頭である)という考え方がある	43.3%

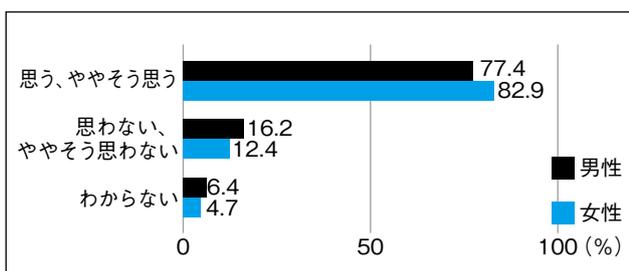
■ 地域行事や会合に参加する男女の割合に差がある原因は何だと思うか(複数回答可)



6割が「社会的なしきたりや習わし」

全体で見ると「社会的なしきたりや習わし」が63%と最も高く、「性別によって役割が違うという思い込み」が45%と続く。地区の会合に主に参加する人を尋ねた質問では、「世帯主(男)」が60%と最も高い。

■ 固定的な性別役割分担をなくす必要があると思うか



8割が「必要がある」と感じている

固定的な性別役割分担をなくす必要があると思う人が、全体で80%ある。必要があると思う理由は「性別にかかわらず、誰もが自分の生き方を自由に選択できるから」が71%と最も高く、「家庭・職場・地域でも家事・育児・介護などを皆で支えることがあたり前となるから」が62%と続く。

※掲載している情報は編集時点(11月15日)のもので、変更になっている場合がありますので、注意してください。

「暮らしの中の性別役割分担の実態と意識調査」の結果

今後のジェンダーギャップの解消の取組み検討の参考とするため、高校生以上の市民の方を対象に、暮らしの中の性別役割分担の実態とジェンダーギャップ(社会的・文化的な男女間格差)に関する意識調査を実施しました。その概要をお知らせします。詳しくは、市ホームページをご覧ください。

《問合せ》ジェンダーギャップ対策室 ☎21-9004

調査期間	2021年7~8月
調査方法	インターネット調査
有効回答数	626件(男性283・女性339・その他4)

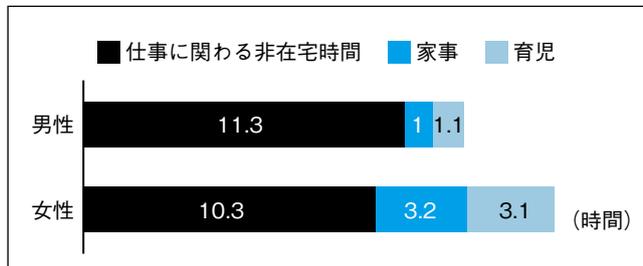


※集計結果は小数点第2位を四捨五入しているため、数値の合計が100%にならない場合がある。

1 子育て世帯の家事・育児の実態(対象：高校生までの子どもを持ち、働いている人)

■仕事・家事・育児に要する時間の使い方(平日)

全部を合計すると女性に多大な負担、家事・育児の合計では女性が男性の3倍

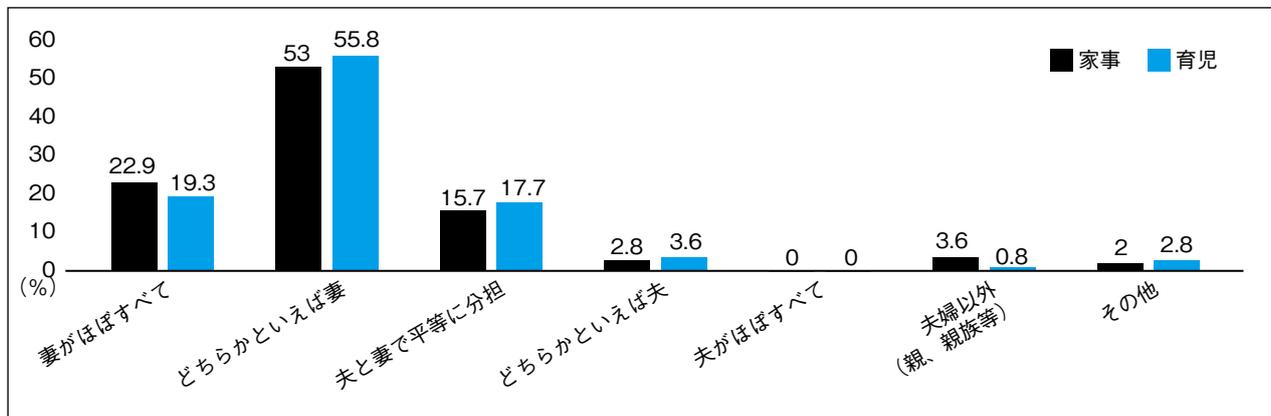


男性は女性よりも仕事に関わる時間が1時間長い。一方、女性は男性よりも家事・育児の合計時間が3倍で、4.2時間長い。仕事・家事・育児を合計すると女性に多大な負担がかかっている。

※仕事に関わる非在宅時間
勤務や通勤時間など。「家につく時間」から「家を出る時間」をひいて算出した時間

■家事・育児の分担状況

「どちらかといえば妻が担っているが、夫が一部担っている」家庭が5割以上で最も多い



家事・育児とも「どちらかといえば妻」が5割以上で最も多く、次いで「妻がほぼすべて」「夫と妻で平等に分担」の順となっている。

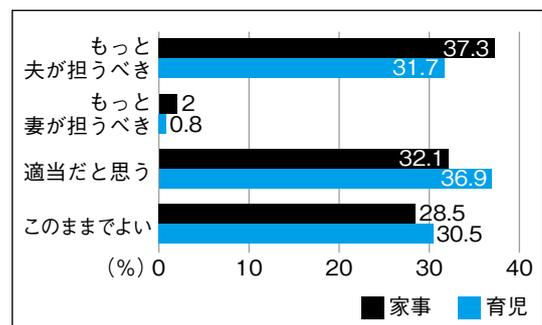
このような分担になっている理由は「特に決めたわけではないがなんとなく」(家事では47%、育児では45%)が最も高く、「夫の仕事が忙しいから」(家事では37%、育児では35%)が続く。

■家事・育児分担についての考え

「もっと夫が担うべき」が3割以上

「もっと夫が担うべき」と考える人は、家事では37%(男性23%、女性48%)、育児では32%(男性21%、女性40%)ある。

その理由は「お互いの仕事量に比べて不公平と感じるから」(家事では60%、育児では51%)が最も高く、次いで「夫に家事・育児を行う余裕があると思うから」(家事では51%、育児では43%)が続く。



※掲載している情報は編集時点(11月15日)のもので、変更になっている場合がありますので、注意してください。